

日本原子力学会 標準委員会 リスク専門部会 PRA 品質確保分科会
第 28 回会合議事録

日時：2019 年 4 月 22 日（月）13:30～17:20

場所：電力中央研究所 大手町地区 大手町ビル 7 階 710B 会議室

出席者（敬称略）

委員：桐本主査(電中研)，藤崎幹事(関電)，倉本(NEL)，杉原（原電），
曾根田(日立 GE)，田中(MHI)，日高(テプシス)，吉田（JAEA）

8 名出席

代理委員：藤井（東芝 ESS／小森委員代理）

1 名出席

常時参加者：山本(原電エンジ)

1 名出席

配付資料：

RK4SC28-1：第 27 回 PRA 品質確保分科会議事録案

RK4SC28-2：人事について

RK4SC28-3-1：第 32 回 PRA 活用検討タスク結果メモ（リスク関係標準の体系化，品質確保標準関係）

RK4SC28-3-2：リスク関連標準の体系化の全体像の検討について

RK4SC28-3-3：原子力発電所の安全規制における「リスク情報」活用の基本ガイドライン（抜粋）

RK4SC28-4：IRIDM 標準 メール審議結果及び対応案

RK4SC28-5-1：品質確保基準 意見募集コメント集約表

RK4SC28-5-2：品質確保基準 標準文案（4/22 版）

RK4SC28-5-3：リスク評価のプロセスにおける品質確保基準の位置付け

RK4SC28-6：分科会検討スケジュール案

RK4SC28-参考 1：分科会名簿

RK4SC28-参考 2：PRA 標準の性能規定化と階層化の試み

議事：

1. 定足数の確認

委員 13 名中 9 名が出席しており，本会議が議決に必要な定足数を満足していることが確認された。

2. 前回議事録の確認（RK4SC28-1）

RK4SC28-1 に基づき，第 27 回分科会の内容確認が行われた。委員からコメント等がなく，正式版として了承された。

3. 人事について（RK4SC28-2）

岡野副主査，野村幹事が退任され，新たに藤崎委員候補の選任が承認された。

幹事の退任に伴い，後任は藤崎委員となった。副主査の後任については，後日，相談して選任することとなった。

4. リスク関連標準の階層化・体系化について（PRA 活用検討タスクの結果）
（RK4SC28-3-1～28-3-3）

標記について，桐本主査，藤崎幹事より，4/18 の第 32 回 PRA 活用検討タスクにおける議論を踏まえた，リスク関連標準の体系化に関する検討状況について報告があった。

主な質疑は以下のとおり。

C：標準委員会において，品質確保標準を各 PRA 標準の上位標準に位置する標準に置き換

えるべきという議論もあり，体系化の全体像を検討するWGで検討する予定である。一方で構成管理等の補足事項を改定で織り込む必要もあることから，品質確保分科会では，現行の位置付けとして改定作業を検討していく。

5. IRIDM 標準の PRA 関係附属書 標準委員会他コメント対応状況について (RK4SC28-4)

標記について，倉本委員より，IRIDM 標準の状況が報告された。

主な議論は以下のとおり。

Q：標準原案へのコメントはすべて編集上の修正で対応したものか。

A：編集上の修正のみ。

Q：今後のプロセスは？

A：専門部会での承認後，標準委員会にて回答。

C：LERF について国内外の動向を踏まえた議論があった。

6. 品質確保標準の改定案について (RK4SC28-5-1～28-5-3)

標記について，藤崎幹事，日高委員から，改定案に係るコメント対応方針について報告があり，内容について議論した。

主な議論は以下のとおり。

C：No.3 について，「スコープの変更」を追記する方針とし，構成を整理する。

C：No.4 について，JEAC4111 と同内容であっても記載する方針とする。また，本文への記載も含めて構成を整理する。

C：No.6 について，米国の事例を参考に対処方針を検討する。検討にあたって，”White Paper: Practical Insights and Lessons Learned on Implementing Expert Elicitation, October 13, 2016, U.S.NRC”の勉強会を実施する。また，NUREG-2213 (SSHAC) についても参考となることから，各メンバーに担当を割り振り，和訳作業を実施する。

C：No.7 について，附属書 H の構成を整理する。

Q：原案では「H.2 ピアレビューのチェック項目」，「H.3 ピアレビューの事前準備について」の順番であるが，安全問題に資する形でのピアレビューであればモデルを踏まえてチェックシートを整備するものであり，順番を入れ替えた方が良いのではないか。

A：指摘を踏まえて構成を整理する。

C：No.11 について，提案された変更として「スコープの変更」を追加する。

C：No.12 について，箇条 1 のなお書きとして PRA 標準以外のリスク評価標準に適用する場合は，この標準で使用する”PRA”という用語を適切に読み替えることができるので，タイトルは「確率論的リスク評価」に戻す

C：No.14 について，「重要な事故シーケンスに影響する・・・」の記載は残す。

Q：重要な事故シーケンスに影響しない場合でも，ASME 基準における SR への適合性が変わるような場合については再確認が必要になるのではないか。

A：重要な事故シーケンスに影響しないのであれば，PRA のメンテナンスの範囲となるのではないか。

C：No.15 について，「リスク評価の品質」を定義する文章を解説 1 に追記する。

C：No.16 について，タイトルを「・・・品質確保のための共通の要求事項に関する実施基準」とする。

C：No.22 について，附属書 I I.2 の「また」以降の記載は I.1 の内容と重複するため削除する。

C：No.23 について，活用の程度の記載は再度検討する。

C：No.26 について，次回の分科会で議論する。

C：その他，コメント・意見等あれば，メールにて連絡願う。

7. 次回分科会日程

次回分科会の開催については、6月10日（月）から12日（水）、17日（月）から19日（水）を候補として調整することとなった。

以 上